２０２４年度事業計画

基本方針

当財団の定款に示されている「清水港を中心に広く全国における海事に関する資料を収集、保存及び展示し、清水港の歴史的変遷を紹介することにより、海事関係者に対する海事知識の普及を図るとともに、地域住民の海事思想の高揚を図り、もって清水港の発展と振興に寄与することを目的とする」にのっとり、清水の発展と地域住民のアイデンティティが港と不可分であり、「海と人、生活を結びつける港」の意義を深く伝え、広めていく市民への文化の発信拠点として機能していくことを使命と考えております。

そこで、地域の歴史や民俗を含めた海事関係事業を中心とし、当地域に縁をもつ作家の紹介も含めて博物館事業を展開しています。また、周辺住民との交流はもとより、将来を担う子どもたちへの学習と情報提供を行う拠点としての事業も模索しております。

1991 年に財団法人清水港湾博物館となり、煉瓦建築の施設となりました。2012 年には港湾により親しんでいただく事業を実施するために一般財団法人清水港湾博物館へと移行しました。今後とも、設立の趣旨及び財団の設置目的を達成するため、より港湾の活性化にも寄与することができる事業を推進してまいります。

今年度の事業について

(1) 展覧会事業

当館の展示事業は、通常基本となる海事関係を１階の「常設展示室」で紹介し、企画展示を２階の「企画展示室」で実施しています。今年度も以下の企画展を計画しています。

・企画展「銘仙展　夏　ーあこがれの大正・昭和ー」

5 月 18 日（土）～ 7 月 28 日（日）

銘仙は、絹織物には不向きな屑繭から引いた太めの絹糸を緯糸に使い、密に織った安価で丈夫な着物でした。しかし、幕末以降の輸出用生糸の増産により規格外の繭が生じた関東の養蚕・絹織物地域の生地と、大正～昭和初期に日本で流行したアールヌーボーやアール・デコの影響を受けたデザインの銘仙が大正から昭和初期にかけて大流行しました。本展は銘仙の中でも初夏～秋の一重の着物を選び、「銘仙展　夏」として開催します。

・企画展「世界の客船ポスター」 協力：公益財団法人帆船日本丸記念財団・横浜みなと博物館

8 月 3 日（土）～ 9 月 8 日（日）

欧米と日本の開運会社が発行した 1890 年代から 1960 年代までの客船ポスターを紹介します。この時期は貨客船が乗客と貨物の双方を運び、大西洋と太平洋を盛んに航海していました。この時期の幾何学的なデザインにアール・デコの影響を受けた欧米のポスターや日本の明治・大正期の美人画ポスターなど、豪華な客船ポスターを紹介します。

・特別展「エトランジェ　ーL’ETRANGERー」

9 月 14 日（土）～ 11 月 17 日（日）

「L’ETRANGER（異邦人）」は 60 年代末にフランスに定住した日本人アーティストたちが、かなり早い段階で理解したフランス語の最初の単語でした。本展示は当時、フランスに移住した日本人画家にオマージュを捧げるもので、20 人余の日本人画家の作品と写真家・鈴木保広が撮影した写真により 70 年代の日本人作家のパリでの生活と作品を紹介していきます。

・企画展「掛井五郎の仕事」

11 月 23 日（土）～ 1 月 19 日（日）

掛井五郎（1930～2021）は静岡市音羽町に生まれ、東京芸術大学を卒業した後に東京を拠点に活躍した芸術家です。様々な表現で人間を表現しましたが、その方法は彫刻だけに留まらず油彩画や版画にも秀でており、まるで何人もの作家が制作したようだといわれています。本展は一般財団法人掛井五郎財団が所有する 3,000 点以上の作品中から彫刻と版画を精選して紹介します。

・企画展「缶詰ラベルと静岡の缶詰」

1 月 25 日（土）～ 3 月 23 日（日）

和食がユネスコ無形文化遺産登録されて、10 周年を記念し東京国立科学館で開催している「和食展」に関連し、2025 年に静岡市を巡回予定の同展示会のプレ展示としての開催を考えています。清水は日本のツナ缶詰発祥の地であり、現在でも静岡は“ 缶詰王国 ”を自称しています。そこで、当館がコレクションしている缶詰ラベルと、缶詰の製作や流通、広報関連資料により、静岡の缶詰産業を紹介したいと考えています。

・企画展「黒猫奇譚　ー坂崎幸之助コレクションー」

3 月 29 日（土）～ 5 月 11 日（日）

ジ・アルフィーの坂崎幸之助 氏のコレクション展の第２弾です。坂崎氏は、子どもの頃に黒猫を飼っており、どこか不思議な魅力を黒猫に感じているのでしょう、とコレクションの由縁を言っています。30 年かけて収集した、明治から昭和時代にかけて日本で制作され、国内と海外へ輸出された黒い猫の置物を陶器、ガラス、木、紙など、素材に分けて紹介します。

⑵ イベント事業

特別展・企画展の理解を深めるために、補助として講演会、実演会などを実施していきます。また、現代史講座（山田吉彦東海大学静岡キャンパス長）や学芸部長講座、歴史講座を開催し、文化史や歴史の理解を深める事業を実施していきます。また、恒例となっている「キャンドルナイト」や「清水みなと寄席」も開催していく予定です。

⑶ 教育事業

夏休み期間中には 10 人を限度として静岡県内在住もしくは出身の大学生を対象とした学芸員資格取得のための実習を行っています。この事業は登録博物館に求められるもので、文化財保護の啓蒙活動の一環としても実施しています。また、近在の高等学校や小・中学校の生徒を対象とした職場体験事業も受け入れていきます。

⑷ 資料収集調査研究事業

清水港と港湾関係資料を積極的に調査収集していきます。大正時代以前の資料は年々難しくなってきていますが、常設展示の充実には欠かすことができない事業です。また、今後は系統だった資料の収集が必要と考えられます。